

キラットさん

BE AMBITIOUS

『2代目 女子生徒会長』

大館鳳鳴高校 3年

木次谷 直子 さん



鳳鳴高校史上にはまれな女子生徒会長という立場にも、
気負いはなし。

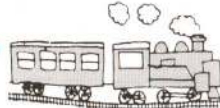
「自分の手で学校祭を作り上げたたくて立候補したんです」と話す木次谷さんは、現在、鳳鳴高校の生徒会長を務めています。鳳鳴高校といえば、昔から「バンカラ」だとか「質実剛健」といった言葉で語られることの多い、男性的な校風を持つ学校。その鳳鳴高校の生徒会長が女の子なの？ と感じるの、同校のOBだけではないと思います。実は、同校で女子が生徒会長に就任したのは彼女が二例目で、前例を訪ねると、なんと昭和二十八年にまでさかのぼるのですね。

そんないわく付きの生徒会長として、なにかとプレッシャー

を感じる人が多いのでは？と尋ねると、「女子会長だからという意識は全くありません。本校の校風についても、私は、バンカラとか男性的といったイメージでとらえていません。男女共学の学校ですから、小・中学校の延長線にある学校生活を送れ、気楽なものですよ」との答えが返ってきます。鳳鳴高校の男性的な気風が薄くなってきているのは、男子が頼りなくなってきたからなのでしょうか、との問いには「いいえ、男子生徒は現在でも頼りになる存在ですよ。あえて言うなら、女子が男子に肩を並べてきた、ということなのではないでしょうか」と話してくれました。この風潮は、同校だけに限ったことではないような気がしますね。

普段の学校生活と生徒会長職の両立も難なくこなす行動派の彼女、自らも「悩むより先に飛び込むタイプ」と分析しています。趣味は映画観賞。特に「お涙ちょうだいもの」が好きなのだそうで、「最近、『クレイマー・クレイマー』を見て泣きました」とのこと。自宅は豊町。家族は両親とお兄さん一人。

仙台発 → 大館着



前略

大館市民になりました

53

☆今回は有浦6丁目の高橋次雄さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

妻晴美と長男の拓也、長女の彩と私の四人です。

Q・どちらからおいでになりましたか？

今年の七月下旬、転勤で仙台市から来ました。

Q・大館の印象はいかがですか？

転入早々、雪がいっぱい降ると聞かされて驚いています。私たち一家はスキーが好きなので雪があるのはうれしいのですが、雪かきが大変なのだそうですね。また、温泉が街のど真ん中にたくさん沸いていることにもびっくりしました。転勤族の私ですが、こんなに温泉がある町はほかに例を知りません。安く入れるのもいいですね。ぜひ市内の温泉めぐりをしてみたいです。

Q・食べ物や言葉はいかがですか？

以前シヨツル鍋を食べたことがあるのですが、クセのある匂いになじめませんでした。大館が本場だというきりたんぼは「ぜひ作り方をマスターしたい」と妻が張り切っています。言葉ではさほど不自由していません。若い方は標準語で話してくれますし、年配のかたはこちらが聞き取れないと察すると、わかりやすく言い直してくれますから。大館の人の温かさを感じますね。

Q・大館に何を望みますか？

ドームや短大の設置によって、特に若者の交流人口が増えると思います。それによって経済活動の活性化が望めますから、街により発展的な気風が生まれるのではないのでしょうか。若者が定住しなくなるような職場が増えるといいですね。市外からの大資本の参入も、そのためには良い手ではないでしょうか。



旅行先(オーストラリア)でのスナップ